

最上三十三観音札所の歴史と魅力

みちのく山形の霊場「最上三十三観音」札所は、開創が五百七十年以上までさかのぼる国内有数の歴史を持つ巡礼地です。

各札所は、松尾芭蕉の「五月雨をあつめて早し最上川」で有名な最上川に沿って、南は山形県上市市から北は秋田県境付近の鮭川村までいずれも風光明媚な地に点在しています。

最上三十三観音札所霊場の魅力は、

- ①お堂のなかでお経が読める素朴な雰囲気
- ②疲れを癒す温泉群
- ③果物・おそば・お米などの味の観光
- ④山と川そしてお堂が織りなす景観
- ⑤素朴な人情とおもてなしのこころ

等が挙げられ、全国各地から多くの観音信仰篤き善男善女が巡礼されています。

最上三十三観音 巡礼縁起 光姫物語 (抜粋)

最上札所草創の頃と思われる次のような伝説が残されています。

山形城主最上家五代目頼宗公のひとり娘「光姫」は、熱心な観音信者でありましたが、その美しさの故に光姫をめぐる争いが絶えませんでした。それを憂えた光姫は出家し、観音霊場巡礼に旅立つのでありました。途中、旅の見世物師と称する老人と出会い、一番若松から三十三番までの道筋を教えられましたが、この老人こそ観世音菩薩の変化したお姿だったのです。一ヶ月余りの苦修練行の後、結願三十三番庭月観音にたどり着いた光姫のこころは、観音妙智力により、清浄と安らぎを得たのでありました。その後も靈験を求め、あまたの善男善女が参拝するようになり、最上三十三観音巡礼が世間に広まっていったと伝えられています。

観音様の靈験とは?

観音様の正式名称は「観世音菩薩」(あるいは観自在菩薩)で、「世の人々の救いを求める声(音)を聞くと、直ちに救済して下さる」というホトケ様です。

その救済にあたって観音様はお姿を三十三に変えて教え導いて下さるので「三十三応現身」(さんじゅうさんおうげんしん)とされています。



巡礼での心得

札所(霊場)参りをしてみようと思ったとき、また、ひとから誘われて一緒に行こうと考えたときが巡礼の第一歩であります。

巡礼してみようと思いつキッカケは人によって様々だと思いますが、巡礼するご縁があったこと、巡礼できる幸せに先ず感謝したいものです。

「同行二人」、いつも観音様と一緒に歩いているという心持ちで巡礼し、道中では行き逢う人にもあいさつをし、親切にするよう心がけましょう。

お堂の中では、心を落ち着けるつもりで静かに手を合わせ、心の中だけでも結構ですから「南無観世音菩薩」とお唱え下さい。そして静かに顔をあげて観音様と向き合ったとき、必ずや観音様があなたに何か語りかけてくださるはずですよ。観音様との対話は、言い換えれば自分自身との対話でもあるのです。

札所に一歩足を踏み入ると、そこは浄域ですから、姿勢・服装を正し、次のことは守りたいものです。

- 1、巡礼の目的を認識し、霊場の建造物・庭園等を大切に、火の用心を心がけましょう。
- 2、騒々しい行いや、動作はつつしみましょう。
- 3、手を清め、口をすすいで、さっぱりとした気持で参拝しましょう。
- 4、「納め札」は所定の所に貼るか、または、納経箱に納めて下さい。
- 5、「千社札」を貼ることは禁止されております。納経箱、または、納経所に納めて下さい。

すべてのものに感謝し、「おかげさまで」と思う心が大事です。一心に観世音菩薩の名号を唱えながら、家内安全・二世安楽を願い、ご先祖様の菩提を願い、一切衆生(生きとし生けるもの)に慈悲をまわす祈りの旅、それが「巡礼」であります。